

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 25, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun. 2019



2018 臺中世界花卉博覧會 (2018 台中フローラ世界博覧会)

右 :さまざまな団体の出展が並ぶ
展示室

左上 :多種多様なランをモチーフに
した展示室

左中 :ランの培養・栽培をテーマに
した展示

左下 :花舞館への入館を待つ人たち

たなか のりひさ

田中 徳久 (学芸部長)

2019年2月中旬、台湾大学の植物標本庫に標本調査に出かけるのに合わせ、台中で開催されていた『2018 臺中世界花卉博覧會』を訪問しました。博覧会のカテゴリーや定義は複雑な部分がありますが、臺中世界花卉博覧會は、国際園芸家協会から国際園芸博覧会(花博)として認定されているものです。開催期間は2018年11月3日から2019年4月24日で、外埔、后里、豐原の3地区を会場として開催されました。このうち、今回訪れたのは后里地区で、后里馬場と森林園區の2つの園區です。后里馬場では、特に花舞館^{カブカン}を中心的に観覧しました。台湾の温暖な

気候にマッチするラン科植物に着目した多様な展示が展開され、自生種の保護や園芸用の栽培、組織培養をテーマにした展示などが目を引きました。

なお、横浜市では、2026年開催の国際園芸博覧会の誘致を進めており、国も支援しています。この臺中世界花卉博覧會では、計画中にレッドリストに掲載されているタイワンヤマネコの生息が確認され、会場計画を変更した経緯があります。横浜の花博は旧米軍基地の跡地の一部を活用すると聞いていますが、自然環境や動植物の保護・保全にも配慮された開催となることを期待したいと思います。